



「成れかし」

カトリック教会の新年は、マリアとともに始まります。1月1日は、「神の母聖マリア」の祭日です。

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように(仰せのごとく、われに**成れかし**)。』
(ルカ1・38)

天使ガブリエルを通して告げられた父である神のことばを聞き、受け入れたマリアの信仰によって、救い主が世界に与えられました。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう。』(ルカ1・45)

マリアは、みことばに信頼し、「成れかし」と答えて、みことばを受け入れ、「成れかし」に自分の人生を要約し、この在り方、生き方に余すところなく自分自身を投げ出したことが賞讃されました。マリアは、「神のみことばは必ず実現する」と信じる福音的至福を徹底的に実現する日々を歩きました。

「マリアは、これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。』
(ルカ2・19)

イエスの母は、わたしたちの信仰の模範として存在します。マリアは、みことばに聞きいる人類と教会の似姿であり、超越者に向かって全面的に自己を開き“みことばに聞きいる者”と定義される人間の基本姿勢を

教えています。

「聖霊によって身ごもる」という稀有な状況を自分のものとし、「主のはしため」に目をとめてくださった主を讃美するマリアの信仰に倣い、新しく与えられたこの一年を「成れかし」と、主に委ねて過ごしましょう。

「非暴力、平和を実現するための政治体制」

新年の初めにあたり、わたしは世界中の民族と国民、諸国政府の指導者、そして諸宗教と市民社会のさまざまな分野の責任者の皆さんに、平和へのわたしの切なる願いを伝えます。わたしはあらゆる大人と子どもに平和が訪れるよう望んでいます。そして一人ひとりの人間に刻まれた神の似姿により、わたしたちが互いを限りない尊厳を与えられた神聖なたまものとして認め合うことができるよう祈ります。とりわけ争いにまみれた状況の中で、「尊厳への深い敬意」を抱き、積極的な非暴力に基づく生き方を実践しましょう。

本書は第50回世界平和の日のメッセージです。第1回世界平和の日に、福者パウロ六世はカトリック信者だけでなくすべての人々に断言しました。「(野心に満ちた国家主義の緊張でもなく、暴力による征服でもなく、間違った市民社会をもたらす抑圧でもなく)、平和こそ人類の発展のために必要な唯一の」道です。そして次のように警告しました。「次に、

国際間の紛争は、人間の思慮ある方法では解決できないと信じ込む危険です。つまり人間の権利や、正義や、公平に根ざした試みでは解決できず、殺人的な力だけでしか解決できないと信じ込む危険です。そして自らの前任者である聖ヨハネ二十三世の回勅『パーチェム・イン・テリス——地上の平和』を引用しつつ、「真理と正義と自由と愛に根ざした平和の認識と、平和への愛」をたたえました。50年を経た今も、これらのことばはその重要性和緊急性を失っていません。

わたしはこの機会に、平和を実現するための政治体制としての「非暴力」について、熟考したいと思いません。そして、わたしたちの個人的な思考と価値観の根底で、非暴力が育まれるよう神の助けを願い求めます。人と人とのかかわり、社会における関係、さらには国際的な関係において、愛と非暴力に基づく交わりが行われますように。暴力の犠牲者が報復という誘惑に耐えるとき、その人は非暴力に基づく平和構築のもっとも確かな担い手になります。地域的、日常的な局面から国際的な秩序に至るまで、非暴力がわたしたちの決断、わたしたちの人間関係、わたしたちの活動、そしてあらゆる種類の政治の特徴となりますように。

教皇フランシスコ、2017年「世界平和の日」(1月1日)メッセージ(第1章抜粋)
(カトリック中央協議会 訳)



(ホームページ)